情報科学芸術大学院大学附属図書館

［創刊号］
vol. 1
2015.9

IAMAS 図書館便り

IAMAS［イアマス］とは、情報科学芸術大学院大学の英語表記の頭文字を取った略称です。

特集 独自の身体論を展開 小林昌廣

→自著を語る
→思い出の一冊
→学生に薦める一冊

●私のイチオシ ー学生が薦める本ー

●館長コラム

●お知らせ

→Web サイトをリニューアル
→七化栞を配布ほか

特集　独自の身体論を展開 小林昌廣（こばやし まさひろ）

この特集では、IAMAS の教員に、自著・思い出の本・お薦めの本を紹介してもらいます。学生が自分の研究について本を推薦してもらうことはあっても、「先生」自身に関わる本の話を聞く機会は少ないかもしれません。この特集が、本を知るとともに「先生」をよく知るきっかけになればうれしいです。
第 1 回は、図書館長でもある小林昌廣教授です。

→自著を語る　『病い論の現在形』小林昌廣

青弓社／1993 年

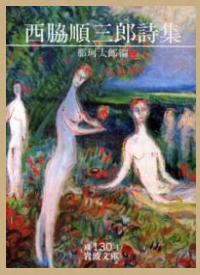
ぼくが最初に単著として出版したのは『病い論の現在形』だった。青弓社から 1993 年に刊行されている。同じ出版社から出ていた季刊誌「クリティーク」に毎回寄稿していたテキストをまとめたものであった。当時編集長からは、ミシェル・フーコーの『臨床医学の誕生』の日本版みたいのを連載で書かないかと言われ、自分なりに格闘して、毎回フーコーのその著作の目次の順番でテーマを決め、日本の医学史関連の文献を蒐集しつつ、当時の日本医史学会や医学史研究会、さらには中国の医史研究所などの会合に出席したり、資料をお借りしつつ、自分なりの『臨床医学の誕生』を構築できた、と当時は思っていたのだろう。いま改めて読み直してみると、アラサーの頃は、多いときは雑誌の連載が月五本ほどあり、それ以外にも何冊かの雑誌の編集の仕事や座談会やインタビューの作業などを、看護学校や短大の哲学教師をしながらやっていたわけで、そんな時間に追いまくられながらも、フーコーの原書にあたり、日本語以外のさまざまな翻訳も参照しつつ、当時のベストセラーであった増田みず子や小川洋子らの小説も読んでいたわけで、時間のない時のほうが人は仕事をするのだなという思いをもっとも強くする一冊であった。

→思い出の一冊　『杜子春』芥川龍之介

新潮文庫／2010 年

小学校 5 年生の頃だっただろうか、夏休みの宿題で「論文執筆」というのがあった。レポートや作文ではなく、「論文」という課題だった。テーマは何でもよかったが、ぼくは一冊の書物を題材にした。それは芥川龍之介の『杜子春』であった。そもそも論文というものはどうやって書くのかを知らなかった小学生のぼくは、まずは谷崎潤一郎の『文章読本』を繙（ひもと）いた（三島由紀夫の『文章読本』も刊行されていたが、当時はちょうど三島の亡くなった年だったのでそこまで注意がいかなかった）。で、結局わからず、書店や図書館で「論文の書き方」のような参考書を何冊か読んでみた（大学入試に小論文が課せられるのはもう少し後になってからだ）。そして、『杜子春』の「研究」に進んだ。まずは作家芥川龍之介の出自を探る。そこで実母の精神病のことが判明し、芥川自身の自殺のことがつながる。精神分析学など知らなかったぼくだが、実母に対する思慕の念が、この『杜子春』には濃厚に表わされていることは直感的に理解できた。人間の両親が責め苛（さいな）まれる場面は、彼らが馬に変えられたからこそ憐れみが増すのであって、芥川は辰年ではなく、じつは午年なのではないかと、当時のぼくは妄想したくらいだった。ただ、この「論文」が明確な『杜子春』論ではなく、芥川龍之介の病跡学になってしまったことは、現在のぼくの関心につながっているのである。

→学生に薦める一冊　『西脇順三郎詩集』那珂太郎／編



岩波文庫／1991 年

読まなければいけない書物は山積しているし、読まれるべき書物は大挙して押し寄せてくる。それでも大学院生のときに読むべき本というものがあるとするなら、できるだけ自分の専攻領域から遠い分野の一冊を選ぶべきだと思う。読むときにおよそ自分の周囲の情報を駆使して関連づけることのできない書物は、徹頭徹尾新しい世界を垣間見せてくれるからだ。その意味では、たとえば詩集などはどうだろうか。中原中也、西脇順三郎、田村隆一など…。彼らの描く言語世界は、いかなる感覚を優位にしても挫折せざるを得ない。ただ一点「言語感覚」なるものだけが、彼らの世界に触れる能力として要請されるのだ。たとえば西脇順三郎の「天気」という詩、わずか三行の作品である。

（覆された宝石）のやうな朝
何人か戸口にて誰かとさゝやく
それは神の生誕の日。

この詩のもつ鮮烈なイメージは、他のいかなるメディアを使っても表現することはできない。言語だけに可能なもの、それを読むべきである。

私のイチオシ　ー学生が薦める本ー

よく図書館を利用する本学の２年生に、お薦めの本を紹介してもらいました。特に１年生の皆さんにとって先輩の紹介する本は参考になるのではないでしょうか。（似顔絵：永田美樹さん）

瀬長孝久さん

『建築をめざして』　ル・コルビュジェ

本書を初めて手にとったのは進路に悩んでいた高校生の時である。それをきっかけに建築にのめり込み、結果として 10 年近く建築に関わることになった。文中に三度登場する、"これは建築である。芸術はここにある。"という言葉は建築の総合芸術性を端的に表している。私にとって本書は現在 IAMAS において、現代の総合芸術のあり方を考えるに至る道筋となった一冊である。（鹿島出版会／1989 年）

永田美樹さん

『コンテンポラリー・アート・セオリー』　筒井宏樹／編

2000 年以降の現代アートを読み解くために、「キュレーション」「制度批判」「関係性の美学とその後」「ドキュメント」「ポスト＝メディウム」「パフォーマンス／ パフォーマティヴィティ」のキーワードから、批評理論を紹介している。世界のアートの現状に触れ、日本の理論的言説の不十分さを危惧する。付録的なアートカタログ紹介や、木村稔将によるブックデザインも◎。（イオスアートブックス／2013 年）

東谷俊哉さん

『URBAN PERMACULTURE GUIDE　都会からはじまる新しい生き方のデザイン』　ソーヤー海／監修

Urban Permaculture とは、「都市での」「永久な」「農業／文化」。即ち、持続可能な社会を都会の問題から考えてゆく態度である。Edible、DIY、Gift、Stop の 4 つの言葉をキーワードに様々な実践、コミニティを紹介する。平和活動に身を投じ、ジャングルに移住し、自らをメディア化したソーヤー海が誘う、生き方のデザインガイド。（エムエム・ブックス／2015 年）

館長コラム その１

すでに IAMAS 関係者であればどなたもご存知のことであるが、ぼくは館長ではなく「艦長」を自称している。言うまでもなく「本の海」という世界が前提として眼前に広がっているのだ。海図なき大海原と言えばカッコいいのだが、図書館にはもちろん海図＝配架レイアウトは存在する。だが、訪れる者にとっては、図書館に屹立（きりつ）し、あるいは惰眠を貪る書物たちは、およそ沖の見えない海原に感じるのではないだろうか。本来は、本の海に浮かぶ図書館の艦長、というイメージが正しいのだろうが、図書館はもちろん本という海を湛えている。ヒトの身体が海水と同じ組成の体液を抱え込んでいるように図書館は本によって生かされている。だから、ぼくは「艦長」とは言っても、どこにも「艦」は存在していない。図書館のなかに夥（おびただ）しく広がる本の海を航海するための指針を与える役、というほどの意味であれば、せいぜい一等航海士あたりで十分なのであろうが、やはり書物そのもの（電子化云々）や図書館そのもの（メディアセンター化云々）といった「母艦」の先行きを見つめ、導く役割を演じなければならないということで、やはり「艦長」なのである。

小林昌廣教員室
入口テーブル

お知らせ

→Web サイトをリニューアル

2015 年 7 月 24 日に、図書館 Web サイトをリニューアルしました。主な変更点は、本学 Web サイトにあわせてデザインを一新し、マルチデバイス対応としたことと、蔵書検索の窓をトップ画面に設置したことです。スマートフォンやタブレットでも利用しやすくなりました。

→七化栞を配布

2015 年 6 月 8 日から 7 月 24 日に、学生と教職員計 7 名が制作した栞を配布しました。この七化栞（ななばけしおり：いろいろなしおりの意味）は、本を借りるとついてくる返却期日票を、手元に残したくなる存在感アリのものに変えるという企画です。学生の栞には、①光を反射して模様が浮き出るもの、②かわいいイラストと QR コードを組み合わせたもの、③本に挟まっているスリップを模したものなどがありました。

左から
①Scott Allen さん
②ジョジェヨンさん
③永田美樹さん
の作品です。

→オープンハウスで、ビブリオバトルが大盛況

オープンハウス（2015 年 7 月 25 日・26 日）に、IAMAS プロジェクト関連資料展示、七化栞展や古本市をおこないました。イベントでは、IAMAS 図書館プロジェクト主催で「図書館長が選ぶ今週の一冊・番外篇」と「IAMAS ビブリオバトル」を開催しました。初開催のビブリオバトルは予想外の盛り上がりをみせ、今後も開催することになりました。

→図書館便りの創刊

図書館便りは、人を通して本や情報を知ってもらうこと、図書館に親しんでもらうことを目的に創刊しました。図書館を利用するきっかけになればうれしいです。毎号、本学の教員を一人ずつ特集していきます。次号（12 月発行予定）をお楽しみに！

情報科学芸術大学院大学［IAMAS］附属図書館 編集・発行
〒503-0807 岐阜県大垣市今宿 6 丁目 52 番地 18 ワークショップ 24 1F
TEL・FAX: 0584-75-6803　URL: http://www.iamas.ac.jp/lib/

（表紙イラスト：小林昌廣「歌舞伎鑑賞ノート」より）